

地域医療等対策特別委員会

開催年月日	平成29年8月9日（第18回）					
開催の場所	浜名学園 地域交流室					
開閉会時刻 並びに宣告	開 会	午後 1時35分	委員長	高柳 達弥		
	閉 会	午後 2時50分	委員長	高柳 達弥		
出席並びに 欠席議員 出席 9名 欠席 0名 〔凡例〕 ○は出席を示す ▲は欠席を示す ●は公務欠席を示す	氏名	出欠	氏名	出欠	氏名	出欠
	福永 桂子	○	島田 正次	○		
	菅沼 淳	○	牧野 考二	○		
	土屋 和幸	○	二橋 益良	○		
	高柳 達弥	○				
	佐原 佳美	○				
	竹内 祐子	○				
説明のため 出席した者の 職・氏名	浜名学園 事務局長		小林 利幸	浜名学園保護者会		
	浜名学園 サービス管理責任者		村松 秀昭	浜名学園きぼう保護者会		
	浜名学園きぼう サービス管理責任者		市川 知代	浜名学園なぎさ作業所 保護者会		
	浜名学園なぎさ作業所 サービス管理責任者		杉田 洋一			
	浜名学園 主幹		大石 英喜			
職務のため 出席した者の 職・氏名	係 長	村越 正代	書 記	三浦 梨紗		
会議に付した事件	別紙のとおり					
会議の経過	別紙のとおり					

地域医療等対策特別委員会会議録

平成 2 9 年 8 月 9 日（水）

浜名学園 地域交流室

湖西市議会

〔午後 1 時35分 開会〕

○佐原副委員長 皆様、こんにちは。本日は御多忙のところ、またお暑い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。きょうは浜名学園様、それからその各事業所の保護者様にもお越しいただきまして、ありがとうございます。

それでは委員長、開会をお願いいたします。

○高柳委員長 改めまして皆さん、こんにちは。本日は地域医療等対策特別委員会を開催いたしましたところ、お忙しい中、またお暑いところを集まりいただきまして、ありがとうございます。委員会の開催に当たりましては、浜名学園の局長初め、職員の皆さん、また学園の状況を知るといことで保護者の皆さんにもお集まりいただきました。お世話になりますが、よろしくをお願いいたします。

私は、当委員会の委員長を務めさせていただきます高柳でございます。よろしく申し上げます。

この特別委員会は、高齢化少子化の進んでる中で、医療・介護の体制、その中身の充実等、多大な問題意識のもと、多世代にわたる地域医療・介護のあり方についてを調査・研究するために、特別委員会を議会内に設置し、9名の委員で昨年から医療・介護の現場に出向き、実態を知るといことで、各施設にお邪魔しております。今までには、湖西病院、浜名病院、そして老人保健施設、グループホーム、特養など、主なところや地域包括支援センターなど、施設を回り、多くの御意見、御指摘、ヒントをいただいております。これらの内容を提言としてまとめ、市に提出し、住みやすい安心して暮らせる湖西市となることを目指して取り組んでおりますので、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。最初に挨拶させていただきました。

それでは、お手元でございます議事によりまして進めさせていただきたいなとそんなふうに思いますので、よろしくをお願いいたします。

最初に、浜名学園の事業とか内容とかにつきまして、実績等について、学園のことを知るという意味で、その状況についてお話をいただきたいなと思っておりますので、大石主幹、よろしくお願い申し上げます。

済みません、ちょっと。ここで自己紹介なのですが、時間がありませんので、それぞれ名札がありますので、それで御勘弁いただきたいなとそんなふうに思います。よろしく申し上げます。

○大石浜名学園主幹 それでは御指名をいただきましたので説明させていただきます。私、浜名学園組合事務局主幹の大石英喜と申します。よろしくお願い申し上げます。

それでは皆様のお手元に、現在、浜名学園の施設の御案内というピンク色の表紙の資料と、あとホチキスどめの平成28年度施設利用状況という資料を作成させていただきましたので、こちらのほうで説明させていただきます。済みません、着席して説明させていただく失礼をお許してください。

では、まず施設の御案内の1ページ目をお開きください。表紙を開いて1ページ目をお願いいたします。

そちらのほうに、現在の組合の概要を書いてあります。浜名学園組合は、地方自治法に基づきます一部事務組合で、湖西市さんと浜松市さんによって現在構成されております。設立が昭和45年7月で、代表者、管理者は規約により歴代の湖西市長さんがあて職になって務めておりまして、現在は影山市長が管理者となっております。

議決機関といたしまして、組合議会の定数8人で、湖西市及び浜松市の市議会議員さんからそれぞれ4名を選出いただいて、3月と9月で定例会を実施しております。執行機関といたしましては、管理者が湖西市長、副管理者が浜松市長、会計管理者は湖西市の会計管理者、そして知識経験及び組合議会議員選出の監査委員が各1名おります。これら全て、組合格約で決まっております。

職員は現在、常勤職員だけですが35名、ほかに非常勤がございます。総括の事務局長が1名、現在、施設長を兼務しております。以下、ごらんのような人数ですが、一番直接かかわるところが支援員、利用者の支援に直接携わる支援員でございますが、浜名学園が18名、こちらは入所施設です。そして通所施設の浜名学園きぼうは7名、作業所でございます浜名学園なぎさ作業所が2名となっております。このほかに相談支援事業となっております。

ますとびらのほうで1名の職員がおります。そしてこのほかに非常勤職員といたしまして生活支援員補、職業指導員、運転手及び用務員を配置してございます。

2ページ目は組合の歩みでございますが、こちらのほうはごらんいただくということで説明は割愛させていただきます。

そして浜名学園ですが、3ページ目でございます。障害者支援施設といたしまして、こちらが旧の入所施設でございます。24時間365日、こちらに利用者さんが寝泊まりをして生活をし、かつ訓練を受けるというところでございます。現在、皆様のいらっしゃるサービス施設でございます。

こちらの定員が50名となっております。開所は昭和46年ですが、当初は児童、子供さんの知的障害児を対象とした施設で開所いたしました。入所者の方の高齢化が進みまして、学齢児、いわゆる16歳未満の方がいなくなったということで、平成4年度に現在の知的障害者いわゆる大人の施設のほうへ施設転換というふうな形で変わりました。そして平成23年に現在障害者総合支援法に基づきますこの障害者支援施設への転換を図っております。

現在、利用者さんが男性30人、女性20人で50人、満床になっております。平均年齢はごらんいただきますように全体で46歳11カ月、出身地別の利用者さんの構成は、湖西市さんから23名、浜松市さんから26人、他市とございますが袋井市さんから1名来ております。障害支援区分はごらんのようになっておりますが、介護と同じく区分の数字が大きいほど重度ということになりますので、こういった入所施設の性格上、重度の方が多くなっているというのが特徴でございます。

では続いて2ページ目をお開き願います。生活介護事業所の浜名学園きぼうでございます。きぼうはいわゆる通所施設でございますので、朝、利用者さんが通園の送迎用の自動車もしくは自主登所で来まして、日中活動を行って、夕方には自宅に帰るということとなっております。定員は40名ですが、現在は36名でございますね。あ、一人ふえます。申しわけございません。現在37名になっております。内訳がごらんとおりになってまして、平均年齢のほうは現在全体で31歳2カ月、比較的若くなってございます。出身地別では湖西市さんから21人で、浜松市さん、こちらのほうが1人ふえまして現在16名で、合わせて37名です。支援区分のほうは4と5が多いということで、浜名学園よりはやはり通所、自宅で生活できる、いわゆる軽度の方が多いですが、通所にも比較的軽度の方が多いということではございません。

3番目が浜名学園なぎさ作業所でございます。こちらは就労継続支援事業所のB型と申しまして、利用者さんがここでお仕事をして、販売をし、その収益で工賃をいただくという形でやっております。現在、定員は20名で、ただちょっと異動の関係で1名ちょっとオーバーして、現在21名の方が利用をしております。平均年齢は全体で37歳8カ月という形になっておりまして、出身地は湖西市さんが16人、浜松市さんが5人となっております。障害支援区分はございませんが、これは就労事業所の場合、特に支援区分を分けなくてよいということになっておりますので掲載しておりませんが、やはり就労という形でありまして、きぼうや学園に比べますと軽度の方がふえております。

そして最後に相談支援事業所とびらでございます。障害者総合支援法では、この利用者さんがこういった障害福祉サービスを受けるに当たりましては、計画相談を受けて、サービス等利用計画を作成した上で出身市町村さんに受給者証の発行申請をするとなっております。その事業計画の作成と、継続のサービスをモニタリングも行うことで、相談支援事業所とびらという事業所を運営しております。

以上がこちらの施設の御案内の説明でございます。

そしてもう1枚の施設利用状況のほうを見ていただきますと、こちらが各施設の毎月の、平成28年度の延べの開所日数と延べの利用者数、利用日数を記載したものでございます。開所日数は浜名学園はほぼ365日毎日やっておりますけれども、きぼうとなぎさは大体、月に20日から22日ぐらいを開所日としております。そうした中で利用状況でございます。なぎさは比較的高いんですけど、きぼうの場合、ちょっとなかなか精神的にも継続的

に通えないという方もちょっといらっしゃいまして、どうしても低くなります。

そして4ページを開いていただきますと、こちらのほうに短期入所事業の利用状況が出ております。短期入所、そして5ページは日中一時支援事業でございますが、大変こちらのほうは現在伸びてきておりまして、非常に前向きとして順調な受け入れが続いているところでございます。

そして最後6ページのほうが、先ほど申し上げました計画相談事業の利用状況を書いております。こちらは、最初、始めた当初は比較的多くの方の利用がありましたけれども、ほぼ一巡したという、大体利用されたい方の相談は終わったということで、比較的今は安定した数字となっております。

数字をかいつままで御説明申し上げました。かなり大ざっぱな説明になってしまっていて申しわけございませんけれども、非常に、大きな事故もなく、順調にこれまで、平成28年度も事業が行われ、そして平成29年度も現在順調に進んでいるというところが実態でございます。以上で説明を終わらせていただきます。

○高柳委員長 どうもありがとうございます。

ただいま、学園と施設の状況、施設の利用状況というのをご説明いただいたのですが、この内容につきまして、皆さん方で御意見、お聞きしたいようなことがありましたら、御質問いただければありがたいと思います。お願いいたします。はい、どうぞ。

○佐原副委員長 今、最後にお知らせいただいた資料の5ページの日中一時支援事業が順調に伸びておりましてというふうに御紹介いただいたと思うんですけど、これは28年ですけども、これはいつから、もうずっとやっていた事業でしたかね。

○大石浜名学園主幹 こういった一時支援事業、いわゆるデイサービスになるんですけども、デイサービスという形では、事業形態は違いますけど、平成3年ごろから行ってます。当時は県の単独事業の障害者デイサービス事業ということでやっておりました。現在、日中一時支援事業の形になりましたのは、障害者自立支援法が施行された平成18年度からこの形に変えてやっております。

○佐原副委員長 平均11人から15人、多いとき23人ですけど、前年と比べて伸びてるということですか。

○大石浜名学園主幹 そうですね。

○佐原副委員長 前年はどのくらいなの。

○大石浜名学園主幹 前年度はですね、前年度の合計の利用回数が812回でしたので、140ほど回数としてはふえております。人数のほうは28年度は190人でしたが、前年度173人ですので、多少こちらのほうもふえている状態です。

○佐原副委員長 定員ってあるんですかね。

○大石浜名学園主幹 それについては特にはないです。

○村松浜名学園サービス管理責任者 お泊まりするショートステイはお部屋の関係上6人となっているんですが、日中一時のほうは障害の相性もありまして、大体5人から6人で、人数は決めてはいないんですが、余りたくさん受けて見れないというのでは本末転倒になってしまいますので、大体5人から6人が一時に受け入れる最大人数にはなっています。

○佐原副委員長 ケアプランというか、相談支援プログラムにのっとって見えてるということですね。

○村松浜名学園サービス管理責任者 はい、そうです。

○佐原副委員長 ありがとうございます。

○高柳委員長 いいですか。土屋委員。

○土屋委員 お願いします。健康診断というのは、利用者の皆さんやられてると思うんですけど、これは全てここへ来て行うのか、例えば湖西病院へ行くのか。それはどちらですか。

○大石浜名学園主幹 こちらへ来て。

○土屋委員 湖西病院さん。

○大石浜名学園主幹 湖西病院さんに来ていただいて、健康診断させていただいています。

○土屋委員 通所の方も施設入ってる方も同じように。大体1日でやっちゃうぐらい。

○大石浜名学園主幹 そうですね。

○土屋委員 そうですか。わかりました。

それと、いろんな浜松の病院なんかいろいろあって、それで通所するときがあるんですけど、保護者の方も当然行くことあると思うんで、職員の方がついていくときというのはあるんですか。

○村松浜名学園サービス管理責任者 基本的には保護者の方に、医療的な治療とか判断では保護者の方の同意のもとでやっていますので、基本的には保護者の方が行っているんですが、ちょっと保護者の方が高齢とか、ちょっと不在な方ということがありまして、4名から5名ぐらいがちょっと職員が今連れて行っているというところなんです。ちょっと保護者さん不在で後見人の方がついていたりとか、4人から5人は連れて行ってる状態です。

○土屋委員 私、以前、施設にいたときに、一人の子が病院行きたいと言って、保護者と連絡がとれなくて、病院へ連れて行ったんですけども、診療が始まるといったときに保護者と連絡がとれて、うちの子供は病院なんか診せんでもいいと言われたことがあって、そういうことってあるんですか。

○村松浜名学園サービス管理責任者 基本的にはないです、それは。通院に行くときにはいろいろな定期通院とかあるんですが、てんかんをとめる精神科等含めての定期的な通院とか、あとは内疾患含めてもあるんですが、基本的にはまず保護者の方に同意をとっていくということで、突発的なけがとか急病とかの場合についても必ず保護者の方の同意をとって行っているということです。先生おっしゃられたみたいに保護者の方がちょっとなかなか連絡とれないという方については、病院のほうから携帯電話のほうに必ず連絡つく方にかけて、それで同意を求めて治療とか何かしているというのは、昨年、今までから例にちょっと一、二件はありましたね。かけつけられないというので携帯電話で。

○土屋委員 ありがとうございます。

○高柳委員長 よろしいですか。ほかの方でありましたらお願いします。二橋委員。

○二橋委員 本来は学園の組合のほうから議会も通るものですから、それなりに精査してと思っていますけれども、我々、医療と介護のそういった関係の中で特に調査を今しているわけでございますけれども、この浜名学園の初歩的な話で、入所、今50名なんですけれども、実質、要するにこの対象区域の対象者というのは50名以上は当然対象者になるんですよ。

○村松浜名学園サービス管理責任者 今のところ50名で満床となっております、一応待機待ちという形で、どうしても保護者の方が養育できなくて短期ショートという方が今2名、湖西市の方が1名、浜松市の西区の方が入所待機待ちで1名います。

○二橋委員 その短期の人が、数の上で行けば、大体入所が50名ということで大体充当してるということの判断でよろしいですか。

○村松浜名学園サービス管理責任者 まだ陰の待機待ちという方は、保護者の方が養育できてる人も含めて、一応何かあったら入れていただきたいという方は7名から8名あります。

○二橋委員 ありがとうございます。

○高柳委員長 ほかにございませんか。佐原委員。

○佐原副委員長 先ほどの日中一時支援、いわゆるデイサービスで、今もデイサービスという捉え方でいいんですかね。これちょっと、もうちょっと昼間行かせるところが欲しいという、在宅している方とかいらっしやるので、うちの近所に。でもちょっと引きこもり状態で、御家族は出したいんだけど、行くところがないという、市で始めたのも週に2回、市のおぼとで始めたデイサービスも週に2回だけなので、もっとあればというお話もあ

るんですけど、もちろん、何て言いましたかね、ケアプランのようなプログラムは。何て言うんでしたか。

○村松浜名学園サービス管理責任者 個別プログラムですかね。

○市川浜名学園きぼうサービス管理責任者 個別計画相談。

○村松浜名学園サービス管理責任者 計画相談。

○佐原副委員長 計画相談。はい。その1カ月のサービス、自立支援法のところでの、きょうはデイサービスへ行くとか、きぼうに来られたりする方は、もうずっときぼう、出るときにはショートを使ったりという、そういう形ですかね。きぼうなり、その就労支援なり。

○村松浜名学園サービス管理責任者 生活介護のきぼうのほうがちょっとそういった使い方を。37名定員中、ちょっと高齢を召している方については障害者と老人の混合の施設からちょっと通われてきてる方が1名いたりとか、あとはきぼうの施設へ通われて、ほかのまた生活介護へ通われる方が一人いて。

○市川浜名学園きぼうサービス管理責任者 浜名学園きぼうの利用者さんを浜名学園きぼうで生活介護を利用して、休日ですとか、そのきぼう来所時間以外でサービスを利用されたい場合は、浜名学園のほかの通所サービスいろいろ出てるんですけども、日中一時とかあります。ショートステイ、短期入所ですね、そういうのを使われているという状況です。

○佐原副委員長 この日中一時支援を使われてる方は、きぼうには来てない方が見えてる。

○市川浜名学園きぼうサービス管理責任者 いや、きぼうに通われてる方でも、きぼうが開所時間が朝の9時から16時までになってまして、その時間、ちょっとおうちの方が不在ですとか、そういう場合、浜名学園のほうで日中一時お願いしますということで、きぼうの生活介護終了したあと浜名学園のほうに希望して日中一時を受ける。

○佐原副委員長 何時までおれるんですか。

○村松浜名学園サービス管理責任者 朝の7時から夜の9時までが営業時間になってます。地域の中では結構長目の営業時間という。

○佐原副委員長 朝の7時から9時まで。ではその間はきぼうに行ったりすることはできるんですか。

○市川浜名学園きぼうサービス管理責任者 そういうことです。

○佐原副委員長 前後を使うと。日中一時支援を。それは家族にとってすごく助かることになります。ありがとうございます。

○高柳委員長 ほかに何か。土屋委員。

○土屋委員 今言った日中一時の話で、9時前と16時以降のやつって、利用者の負担というのは、当然あるんですよ。

○大石浜名学園主幹 基本的に18歳以上、その御本人さんの所得によって軽減されますけれども、今うちでいいますと大体18歳以上の方の年金、所得とか低いもんですから、負担はゼロですけども、18歳未満の方はまだ保護者の方が年金もらってないもんですから、保護者さんの所得で計算されますので、そうすると大体利用額の1割ほどの負担が生じております。

○村松浜名学園サービス管理責任者 あと食事代とその1時間あたりの光熱水費をちょっといただいているということ。

○土屋委員 それで朝早いと夜遅くなると、送迎、いわゆる家の方が来られればいいですけど、来られない場合はこちらのほうで送迎することもあり得るんでしょうか。

○村松浜名学園サービス管理責任者 それはないです。

○土屋委員 それはない。必ず来てもらうと。送りも迎えも。ありがとうございます。

○高柳委員長 よろしいですか。

では、これで1番のほうの学園の内容と実績等につきましてはこれで終わらせていただいて、次の2番の現在抱えている課題ということですが、この特別委員会は医療・介護とかの中で、組合以外もありますけど、そういうことでうちのほうはその関係で医療と介護、そういう関係でいろいろ課題につきまして教えていただければと思うので、そんなくあいをお願いしたいなと思います。

○小林浜名学園事務局長 それでは保護者の方から何か問題点にあったら、直接おっしゃっていただきたいと。

○浜名学園保護者会 浜名学園の保護者会です。別にありません。

○浜名学園きぼう保護者会 浜名学園きぼう保護者会代表です。

うちの子は、湖西病院にはかかってなく、浜松の病院にかかっているんで、今はまだ、自分もまだ動けるんですけど、やっぱり年をとってから、そこに毎月通うというのはちょっと大変なので、湖西病院さんにはやはり常にそういう先生がいないので、予約をとるのがすごく大変と聞いているので、ちょっと希望するというのは今は難しいかなと思って、常にいけば本当助かるなと思います。

○浜名学園なぎさ作業所保護者会① なぎさ作業所の保護者会です。よろしくをお願いします。

うちも今のところ、現状でいいかなとは思っているんですが、やはり病院が、浜北とか浜松の病院で、湖西病院のほうに月に1回とか浜松のほうの先生が来てくださるという日に予約を合わせて仕事を休んだりとか、時間をということで、子供の体調とかもあるので、もし行けなくなってしまうとまた1カ月先とか2カ月先とかという形になってしまうので、随時湖西市内の病院で診ていただける先生、専門の先生がいていただけると助かるかなというふうには思います。

○高柳委員長 ちょっといいですかね。今豊橋とか浜松に行かれるというのは何科に行かれてますか。

○浜名学園なぎさ作業所保護者会① うちの子は一応小児外科の循環器、心臓のほうの内臓疾患がちょっと見つかりまして、それで湖西病院のほう、最初、中学の健康診断で見つかった湖西病院を紹介されたんですけど、結局浜松のほうの大きい病院へということで移されるというか、それで生まれたときも障害を持っているということで、結局専門の先生が湖西にはいないということで、浜北のほうの病院を紹介をされて今まで通っているという形なので、まだ親が元気なうちは遠くても病院に連れて行けるんですけども、やっぱりいつかは動けなくなったときに、施設とかにお願いした場合、遠くの病院まで連れて行ってくれるのか、それか初めての方に、打ち解けるまでに時間がかかる、うちの子のことをわかってくれるまで、お互いにそうなんですけれども、そういうことがあるので、近くで、湖西の中で、ここが悪かったらこの病院とかっていう連携が医療機関の中でできていければ、安心かなというのはあります。

○高柳委員長 浜北って、市民病院じゃなくて。

○浜名学園なぎさ作業所保護者会① 浜北にある発達医療総合福祉センターという友愛のさとというところなんですけど、そのちょっと今経営がどうなっているのか、いろんなところの先生が、医大から先生が来てくれてたりとかという感じで診ていただいているんですけど、医大でも、眼科でも医大でかかっていたんですけども、やっぱり少しよくなるとほかの病院、今までかかっていた病院に移ってもいいよという形で、追い出されるわけではないんですけども、そういった形になるので、やっぱり障害の子を診て、末永くというか、長い期間ちゃんと診てくれるということは無理っぽいですよ、小さいときから診ていただいている、遠くてもわかってくれるところにやっぱり行ったほうがいいのかと思いますけど。

○佐原副委員長 それでも先生たちも転勤というかね。

○浜名学園なぎさ作業所保護者会① それはあります。

○佐原副委員長 あったりしますよね。そうするとその先生を追っかけて。

○浜名学園なぎさ作業所保護者会① 行く方もいらっします。

○佐原副委員長 遠くまで。

○浜名学園なぎさ作業所保護者会① はい。だから浜北で通って、今2人目かな、最初の先生は開業するというので、磐田のほうに行かれたんで、もしよかったら来てもいいですよという声はいただいたんですけど、湖西からそちらにというのもあれだったので。

○佐原副委員長 きぼうの保護者の方も医療のことをおっしゃったけど、どちらへ行かれるんですか。

○浜名学園きぼう保護者会 私も同じ友愛のさとです。

○佐原副委員長 友愛のさと。

○浜名学園きぼう保護者会 もともと聖隷病院に通っていて、ちょっと小学校4年生ぐらいのときに情緒不安定という診断で、薬を処方してもらいたくて、本当は湖西病院に希望したんですけど、4カ月待ちと言われたので、それまでにやっぱりちょっと心配だったので、遠くても浜松の病院に行くようになったんですけど、それでもやっぱりその先生になれるまでやっぱり時間がかかるし、また新しいところが変わるというのもまた難しく、ずっと今は浜松の病院に行ってるんですけども、今はいいんですけど、本当にずっとそこっていうと、それもちょうと大変になるし、それ以外でも眼科とか耳鼻科とか、常にかかってくなくていきなり診てもらおうというのもやはり子供がすごく不安になるので、そういう対応ができる先生がやっぱりいてもらいたいというのが。

○佐原副委員長 前ね、宮本先生ですか、来て、障害児さんに専門的な先生がいらっしゃって言うんですけども、ただ眼科だ何だ、耳鼻科だって、全然ね、専門外はあれですけども、その宮本先生というのは一人の先生でも障害児を診れるという方であれば、その科はもちろん循環器であり消化器だいろいろあると思うんですけど、それで対応できることですか。幾つも科を、その幾つぐらい科が設置といいますか、科が必要というか、その情緒面的な、精神科的な分野と、一般内科でいいんですかね。湖西病院に招聘したいとなれば。

○浜名学園きぼう保護者会 宮本先生にかかるのはやはりすごく時間を待つというか、予約を待つというのは、やはり下の保護者のまだお子さんが小さい人たちは、小児科。大人の精神科というのが多分ないと思うんですけど。みんな15歳になると精神になるので、精神科というふうに。

○浜名学園なぎさ作業所保護者会① 意思疎通がうまくできないと、小児科なら親が入れるんです。内科だと、本人がどこが痛いということが伝えられなくて。だからつい、別に入ってもいいんですけど、その辺が病院でも難しいというか、考えなきゃいけないところですね。二十歳に成人しているんですが、まだ小児科というところに通わなきゃいけないというところがあって、別に診てくれればどこでもいいんですけど、小児科であろうと精神科でもいいんですが、そういうところの、病院のほうでも考えなきゃいけないところだねということは言っていました。

○浜名学園なぎさ作業所保護者会② なぎさ作業所保護者会です。幸いにもちよつとうちは病院にかかることってちよつとなく、一応健康できているのでそういう心配は自分のところはないんですけども、私は湖西市ではなく浜松市に住んでいて、湖西市の状況ちよつとわからないですけども、浜松市も浜松市で結局大きい、一緒くたに考えると人数もすごいですし、浜松市から見たら湖西市さんのほうが目が届くといったら変ですけど、浜松市なんかと比べると、手厚くできるんじゃないかなというのはすごく感じます。これが浜松市ほど大きくないというのもあるかなと思います。浜松市も障害者すごいたくさんいますけど、その人たちにじゃあ全部に目が届いているかというと思わないと思うし、湖西市のほうが優しいかなとちよつと思いました。

○小林浜名学園事務局長 各施設の担当者のほうから何かあったら。

○村松浜名学園サービス管理責任者 今湖西病院さんのほうに、浜名学園入所の利用者さんなんですけど50名中13名ほどが受診させていただいてまして、脳外科のほうに5名、内科のほうに2名、あと外科のほうに3名、あとは小児科と心のケアに1人ずつ、あと耳鼻咽喉科のほうに1名ということで13名の方が受診させていただいてまして、この中で静岡のてんかんセンターのほうに受診している方がいたんですけど、保護者の方が御年80歳、お父様、お母様のほうも80歳近くになって、3カ月に一遍は最低定期通院しなければいけない。それをお父様お母様

が高速道路を飛ばして行ってたというところがあったんですが、症状のほうは比較的安定していたので、湖西病院さんの脳外のほうでちょっと受けていただいたというんで、あとは似たような例で、お父さんのほうがシングルファーザーで、脳こうそくと心疾患のほうを患ってしましまして、定期的にその静岡市のほうの通院が難しくなったというふうに湖西病院さんの脳外で引き受けていただきまして助かったということがあります。あとは似たような形で精神科ですね、精神科の浜松病院のほうに受診している利用者さんが2名ほどいたんですが、1人の方は保護者の方がやはり80代で高齢になったというのと、あとは保護者の方が両方とも寝たきりに近い形になりまして、その次を担う親族、お姉さんですね、の方がその形を担う形になったんですけど、やはり働いているという関係でなかなか通院が難しいというところですが、ここも湖西市の心のケアというところでフォローしていただいて、1名の方が比較的通院のほうスムーズにできているというのがあります。同じような形でもう1人、浜松病院から脳外のほうにスムーズに行っていたいただいたということがあります。

施設としては、やはり24時間見ておりますので、廊下を走ってしまつて、ちょっと転んで頭切ってしまったとか、あとは高齢化もあって、昔は動けたんですけど、そのつもりで動いてしまつて、トイレで滑って切り傷とか、そういった場合に我々すぐ緊急通院のほうするんですが、湖西病院さんのほうでなかなか先生が手配できなくて、湖西病院にちょっと、まずはお電話するんですが、そこでやはり先生がいなくて浜名病院さん。で、浜名病院さんもないと、また浜松のほうでは別の医院という形で、ちょっとそういうところはこのごろ厳しいかなというところがあります。以上です。

○市川浜名学園きぼうサービス管理責任者 現在抱えている課題について、きぼうは通所施設なので、医療機関への通院は保護者にお任せしています。重度であったり、自閉症の利用者さんの場合は、障害の特性で、本人がなかなか医療機関にかかっても、騒いでしまうので、保護者さんが遠慮してしまつて、本人も連れて行けないとか、やはり待ち時間が長いというところが、ちょっとお話を聞くことがあって、その辺が障害の特性に合ったそういう通院の仕方みたいなのがあったらという声も聞いてます。

あとは通院の結果ですね。保護者さんにお任せしているんで、医療機関の結果どういうことだったというのは伝えてもらってもなかなかダイレクトに伝わらないし、こちらの様子もダイレクトに伝えられないので、その辺が医療機関との連携がとれて、直接利用者さんのためにいいようなことがしていけたらと思うところが課題です。以上です。

○杉田浜名学園なぎさ作業所サービス管理責任者 なぎさ作業所の杉田です。よろしくお願ひします。

きぼうと同じように通所の施設で、作業のほうを一日6時間、作業のほうを中心に活動しております。そういった中でいろいろな日中活動の中でも機材を使うものですから、非常にけがをすることが考えられる中で、最小限に、そういったことを気をつけながらふだん行ってるものですから、おかげさまで活動中の大きなけがというものは今のところ特にありません。

ただ、地域で生活していく中で、中には湖西市の訪問看護の方に、在宅のほうで見てもらっている方であったり、それと連携して湖西病院から、個人病院ですけど眼科のほうに通っている方がいまして、ただそこに全てお任せではなくて、私のほうも訪問看護のほうと少し定期的に連携をしながら、自宅のほうに行ってくれるものですから、そこで保護者とのいろいろな話のやりとりというものがありまして、その話のやりとりを私のほうも、そこで聞き入れることができるものですから、家庭の様子が非常にそこで捉えられるものですから、そこと、なるべく近い形で、その御本人さんに支援をしていくような形が、ふだん気をつけていただきたいことということも、そういった中であります。この利用者の方はなかなか職員に対してもそうですし、御家庭でもそうなんですけど、自分の本心をなかなかうまく伝えられない部分があるもんですから、そういった中で少しでもそういったところを引き出してもらえらる中で、できるだけ連携をとっていくということを心がけているものですから、今その利用者さんに関しては非常にいい形で連携をとることかなあと。

あとやはり、平均年齢が37歳というような状況ではありますけど、中には50歳を超えている方もいて、湖西市のほうで助成していただいている特定のがん検診で助成してもらっているのがありまして、御本人さんに相談しながら、受けるか受けないかというところでなかなか全ては受けられないものですから、大腸がんの検診だけは受けるような形で御本人さんと話しているんですが、その方たちというのは親御さんはもうお亡くなりになられて、兄弟だけであるんですが、そういった方でなかなか本人たちだけで行くというのは非常に難しい状況の中で、その御兄弟さんのほうとも連携して相談しながら、ではこの検診は受けてみましょうということで検診のほうは受けていますが、そういったところで実は昨年少しその検診でちょっとひっかかったところがあったものですから、そういったときにやはりその御兄弟さんに、先ほど学園もそうですけど、基本的には保護者さんのほうに付き添っていただくというような状況ではあるんですが、なかなか遠方の方ということと、やはり仕事を抱えているということで、なかなか、じゃあこの日、この日、というふうな指定をされても難しいというような話がありまして、私のほうも、じゃあ病院で待ち合わせしましょう、で、どうしましょうといったときに、なかなかやはり判断を、離れて暮らしているもんですから判断が難しいというようなところもあって、そういったときにはその医師の方がいろいろと助言していただいたものですから、スムーズな検診を進めていく中で、たまたまポリープが見つかって、それを湖西病院でやらせていただいたということで、ある程度私たちのほうも付き添わなきゃいけない部分もありますし、それから医師のほうもやはりこちらで活動している時間が長いということで本人の状況がわかるということで、ある程度はやはり部分的にはお互いにそういったところを協力して連携しながらやっていくということは非常に重要なことを、このところでちょっと、非常にぼつと出てきたところがあったものですから、そういった中では非常に湖西市のほうでもいろんなところで丁寧な対応をしていただいているものですから、非常に今なぎさ作業所の利用者の方としては安心をしている部分ではあるんですが、大きなところになってくると、今度またその専門医だとかそういったことになってくると思いますから非常に難しい問題ではありますけど、今、実際にこういった活動をしている中ではいろんな対応をしていただいていますし、なるべくできるだけ連携をとるといような形では考えております。以上です。

○佐原副委員長 今の方なんか、じゃあ、ひとり暮らしで出るということですか、兄弟となると。

○杉田浜名学園なぎさ作業所サービス管理責任者 兄弟3人です。本来は4人いますけど、一人はもう出てます。その方が一番判断ができる方でありまして、3名の方で自宅で生活しております。そのうちの2人が来てます、なぎさのほうに。

○高柳委員長 ありがとうございます。ただいま管理責任者、保護者のほうから現在抱えている課題ということで話がありましたのですが、その点でこういうことを聞きたいとかありましたらお聞きいただければと思います。土屋委員。

○土屋委員 きぼうの市川さんにお尋ねしますが、例えば湖西病院でもどこでも、待ち時間のときに落ちついて待ってられるかどうかというのがあるじゃないですか。そのときに病院側で配慮してくれる病院ってありますか。ちょっと大変だから先診るねとか。

○市川浜名学園きぼうサービス管理責任者 待ち時間が長かったという話は聞きますけれども、配慮してもらったということは私の耳には入っていません。ただ、歯医者さんとかそういうところだと、なかなか普通の人でも歯医者さんというのは椅子に座って口をあける、機械あってというのは嫌なことなんですけれども、それを本当に椅子に座るところから徐々にならしてくれるという配慮をしてくれている歯医者さんは聞いてます。

○土屋委員 そういう歯医者さんもあるわけですね。ありがとうございます。

○高柳委員長 今のお話の中で、この課題についてこういうことも話しておきたいということがあれば。

いいですね。

なければ時間もあれですので、3番のほうの湖西市の地域医療について考えること、行政に対して求めるもの

ということで、ちょっと大きな問題なんですけど、このことについて、3番に入りたいと思います。

地域医療といいましても、やはりなかなか難しいところがありますけど、疾病の予防とか、持病また在宅での療養とか介護、育児支援など、医療機関と行政とが連携して行うのを、連携して行う総合医療というのを地域医療というような形でいうんですけど、ちょっと問題が大きいんですけど、これについての皆さん方、こんなことがあるよとか、また行政に対してこういうことをしてもらいたいというのがありましたらお話しいただければと思いますけど。お願いします。

学園というのにこだわらずに、今、皆さん方かわってる中で、こういうふうにしてもらいたいとか、こんなふうにしたらどうだろうと、そういうフリーで考えて、ちょっと枠にはまらずに意見をいただければと思うんです。

○村松浜名学園サービス管理責任者 もしあれでしたら、親御さんからの以前からの要望がありまして、大きな病院に受診するときに待ってられないですね、やはり。何時にそれが終わるのかとか、やはりあとその病院の独特の雰囲気が何を自分がされるのかという恐怖心があって、病院で待つというのがすごく苦手な、浜名学園の利用者さんもそうですし、保護者さんについて行ってもらうときもそうなんですけど、先生、待ち時間が長くてね、何とか診てもらいました、結構大変なところがあるみたいで、まあ、これはあれですけど、保護者さんとしてはちょっと静かで落ちついて待てる部屋があるとありがたいなという要望はちょっと過去に何回かあって、私もちょっと通院、利用者さんを緊急で連れて行くときにも、ちょっと静かに過ごせる空間があるとありがたいかなということがあります。

○高柳委員長 今までほかのところでも出た中で、介護の事業所の関係とか医療機関とかも、そういういろんな話し合う機会が、そういうところと連携をするような体制というんですか、そういうのが必要だよという意見も出てるわけですけど、学園のほうではそういう点でこういうことをしてもらいたいんだという話は。

○村松浜名学園サービス管理責任者 1名ですね、だんだん障害が、高齢化してきてるといのがあって認知症に近い症状があったら、認知症というのが診断が確実に出ればいいんですが、ちょっと出ないと。かといってご年齢のほうで65歳以下でまだ介護認定も、認知症って明らかな診断が出ればいいんですが、やはり確定的な診断ってなかなか難しいところがありまして、今、浜名学園で預かっているんですが、やはり保護者さんとしては浜名学園、あくまでも入所更生施設という形で、自分のことが自分のことのできるようになって、地域へ戻っていくという施設の実情、どうしても介護的なところまでフォロー、設備的にできてないというのがありまして、やはりそうなりますと高齢者施設へ移りたいというときにですね、その段取りですね。なかなか地域福祉課さんとも、とても相談に乗っていただけるんですけど、その方と話し合うところと、あと医療機関と話し合うことと、実際には長寿介護課が方向性のほうを決定する、何かそういうやり方はあるにはあるんですけどね、まだちょっと、その都度出てきたら、その都度お願いしてるということがあって、そういった何かあるとありがたいといえればありがたいかなと思います。

○高柳委員長 土屋委員。

○土屋委員 実は村松さんが言ったその認知症の話、とりあえずこの施設で認知症の疑いがあるとかそういう人出たときには、とりあえず何やるですか。

○村松浜名学園サービス管理責任者 とりあえずはまず医療センターですね、ちょっと認知症外来にまず通っていただいて、いやそれが知的障害なのか、認知障害なのかというのがはっきりとわからないんです。ただ、明らかに喜怒哀楽があって過ごせていた人が、明らかにそういったところが抜けてしまって、自分で排せつできたところができなくなったとか、あとは移動するのに異常なほどの嫌がりを見せるとかというところで、今ちょっとなかなか学園のほうで何とか見ているところなんですけど。

○土屋委員 そういう認知症だろうなって例えば診断が出るか、学園のほうで判断するときは、長寿介護課に相

談に行くですか。

○村松浜名学園サービス管理責任者 ええ、そうですね。で、地域包括の方と話を詰めながらというところであれなんですけどね。

○土屋委員 そういう人で、いわゆるそういう施設に浜名学園から移ったケースはありますか。

○村松浜名学園サービス管理責任者 あります。3年前でしょうか。恵翔苑に1名ですね、移られた方がいます。てんかんとまた別の疾患も出てるのと、そのときには認知症の症状も多少は出てたんですが、断定的なところがちょっと出ていないというところで、ただそのときには西区の方だったんですね。老人のほうと障害のほうで話を合わせて、それで介護認定とらせていただいて、それで移ったという方が1名です。湖西市の方はちょっとまだいないですね。

○土屋委員 これから例えば浜松市でも湖西市でもそうですけど、そういう方が出たときにはとりあえずそういう行政機関に相談に行くですか。

○村松浜名学園サービス管理責任者 ええ、そうですね。

○土屋委員 例えば湖西市に限っていうと、認知症の場合は長寿介護課に行って。

○村松浜名学園サービス管理責任者 ええ。多分地域包括のほうと話し合ってくださいという話になると思います。

○土屋委員 そういうのはコンスタントに、定期的にこういう話し合う機会を持てればいいけどという、今の話だと。

○村松浜名学園サービス管理責任者 ええ、そうですね。その都度その都度、案件が起きてからという形とつてますので、これから多分、利用者の方は高齢化の関係でこういう案件がふえていくと思うので。

○土屋委員 わかりました。ありがとうございます。

○高柳委員長 佐原委員。

○佐原副委員長 私も、委員長が地域包括がねというときに、いや、入所してるから地域包括じゃないけど、方を包含的に見るところだから違うんじゃないといったけど、地域包括へ相談されたというね。

○村松浜名学園サービス管理責任者 一度、結局介護認定得るときには退所しないといけないんです。そういった形じゃないと結局ずっと障害のほう使ってるという形になってますので、障害からそちらのほうに移る場合には。ですがそんなことできないじゃないですか。そこをどうやってやったらその制度のほうへ移れるかということで、ちょっとした間があるというところがありまして、そこはちょっと。

○佐原副委員長 実際に退所する。

○村松浜名学園サービス管理責任者 実際には退所はしないんですが、その過去に移った方のときにはうまいことそのすり合わせをしてもらって、退所はしない形にしてますが介護認定とらせてもらって、それで移したと。

○竹内委員 住所を移さなくてはいけないのですか。

○佐原副委員長 そうそう、だから包括で行くには在宅の人じゃないのに何でここにいながらできるのかなと私は思ったわけですよ。じゃあ退所という形を。

○村松浜名学園サービス管理責任者 形的にはどうしてもそういう形ですが、現実的にはちょっとそれが。ですが施設は移らないとの方が過ごせないという状況があって、なかなかその移行がちょっと難しいところが。

○佐原副委員長 そうですか。だから今、土屋委員が言われたように、定期的にやはりそういうものを行政と持っていけば、それこそ待機している方もいらっしゃるわけだから、そこから辺がスムーズな展開ができるのかなと思いました。でも、困った事例が発生したときにだけ、今行くという形ですよね。地域ケア会議にも呼ばれたりすることはないということですね。はい、ありがとうございました。

○高柳委員長 そのほかよろしいでしょうか。

○佐原副委員長 入院するという方は、通院のお話は今されましたけど、50人中、入院される方は待つわけですね。今、入所50人のうち入院しなきゃいけないような病気になった。

○村松浜名学園サービス管理責任者 方は過去にいますね。湖西病院のほうにも器質性肺炎、循環器のほうに、たしかそこは別に施設に籍を置いておいて入院するということはできますので、あと精神疾患の病気があって、精神病院に入院したという方もいます。

○佐原副委員長 湖西病院でも何とか対応は。入院中は。

○村松浜名学園サービス管理責任者 入院、みていたら大変だったみたいですけど、みていただいたということもあります。

○佐原副委員長 在宅の状況はどうですかね。そういう入院の経験とかは。湖西病院ではないんですか。とか市内とか。

○浜名学園なぎさ作業所保護者会① 小さいときにはありました。小さいときに、風邪がちょっとひどくなったりとかというのはありましたけど、小さいときの付き添いで。

○佐原副委員長 小さいときね。さる市町からやはり障害のある方を一般病院の、そういう公立病院でちゃんと受け入れる枠をとってほしいという、今、保護者の運動があるよというのも聞いたんですけど、そこまで皆さんの中で今ニーズはそんなにないということですね。ありがとうございます。

○高柳委員長 保護者の方で、行政に対しても、こんなことしてもらいたいというのがあれば。よろしければ。ごさいませんか。

○浜名学園なぎさ作業所保護者会② 難しいですよ、制度自体もわからないし、見えないところもあると思うんですよ。私たちに。今も在宅の人が対象な地域包括だなんてっていわれても、私にはちょっとわからないので。

○浜名学園なぎさ作業所保護者会① 利用するのに何かこの手続をしてください、手続をしてくださいという感じで、言われたままするから結局よくわかってやってない部分もあると。これが必要だからこれを持って来てくださいという感じで、はいつて言って持って来たりすることもあります。

○佐原副委員長 福祉制度の全体像が見えない。ガイドブックとかあったとしても、なかなか見ない。

○浜名学園なぎさ作業所保護者会② 本を読んで理解できるものと違って、やっぱり聞いてわかるという部分もあるじゃないですか。言ってくれてわかるというか。

○高柳委員長 そういう、医療もですが介護とか、そういう福祉の関係についての内容というのが、市のほうから説明もないしわからないという、そういうことをそういう機会を設けてもらいたいようなことですね。

○浜名学園なぎさ作業所保護者会② わかりやすく簡素化で。煩雑じゃなくてやっぱり。だって自分たちはまだ、変な話、若いというか、理解できるけど、これがもし自分らが70になったときに同じことを説明されても多分もう理解できないと思うんです。じゃあそこで福祉サービス何か利用したいというときに、できないかもしれないですよ。そういうことも考えると、余り煩雑化されてしまうと、ますます分からなくなってしまう。

○佐原副委員長 自分で判断してって言われるもんね。

○浜名学園なぎさ作業所保護者会② そうです。

○高柳委員長 ありがとうございます。時間がたちますので。

二橋委員。

○二橋委員 いろいろ、いろんな事情というか、今の事例の中で、当然我々も聞いておるんですけども、ひとつ核になることで、相談支援の事業の中で、今後の包括ケアの事業を進行するために、何かここでの課題というか、そういうのをちょっとお聞きしたいなと思いますけど。一番核になるところは、この相談事業の中でやはりいろんなことしていくと思うんですけど。

済みません。ちょっと雑駁な質問で申しわけないんだけど、要するにいろんな、ここでの浜名学園としての事業っていろいろあって、それを一つ一つそれぞれ事業を展開しておるわけですね。まず一番対象になるのは要するにその対象者、要するに今保護者の方見えるんだけど、特にこういう事業というのは対象者じゃなくて、保護者が一つの窓口になるもんですね、個人個人の。それを要するにここで相談事業としていろいろやってる中で、将来求められる、今現在課題があれば将来改善しなくてはいけないもんですから、その課題なんか、どんなことがあるんですか。

それじゃ、例えば今のその相談事業の中で、支援事業の中で、何か課題がありますか。

○市川浜名学園きぼうサービス管理責任者 相談支援事業をやってますけれども、計画相談のほうがサービスありきのそれが支援になってます。そういうサービスを新たにどういうものがあるかということを一一般相談のほうの相談支援事業所になっております。それでも基本相談を受けておりますので、計画相談を受ける中でも、今は親御さんも若くて、先ほどもいったとおり今はいいんです。でも今後、これから年をとって、今の生活もやっぱり変わってきたときに、通院もそうですし、いろんなところで親が利用者さんの面倒を見れなくなったときのことというところが一番の課題、心配事としてあるということです。

やっぱり湖西市は今の現状ですと、地域の中でのサービスというのはやっぱり少ない、適合しづらいというところがあって、将来は入所しなければいけないんじゃないかという考えを持って人が多いと思います。やっぱり本来ですと地域の中で、年をとっても、利用者さんが自分で生活することが目標だと思うので、施設入所ではなく、地域の中で生活するために必要なサービスをもっとふやしてほしいというところがあると要望になります。

○二橋委員 どうしても今は行政側ではやはり、いや、なぜきょうここを選んだかというのは、一般的に行政側の対象としては、一般市民が対象になるもんですから、ここではそうじゃなくて要するに若年層からずっと延々とそれを一生送るためのいろんな年次があるんですけど、先ほどお話したように、最終的には面倒見る人が亡くなっちゃって、じゃあどうするのという話になると思うんです、最終的に。だけどその途中途中の過程はやはり一人一人ケアしなきゃいかんもんですから、そうした意味でも、ここでのいろんな相談所とかそういうものがリアルタイムにいろんなことができるように、本来しなきゃいけないと思うんですね。というのは一般だと、要するにそういう高齢者になってから、いろんなふぐあいが起きてる。相当起きてるというのは一般的な考え方なだけども、ここでの対象としては、もう若年層からずっと延々にしてあるんですね。ですからちょっと問題の意味がちよっと違うと思うんです。ですから、今現在抱えてる問題を、自分たちの問題として抽出していかないと、一般的なものの考え方ではまずいもんですから、それはぜひこれから業務の中で、ぜひ抽出していただきたいなと思います。そのためには行政側ではそこまでのリアルタイムの細かい対応はできてないわけですね。今後やらにゃいかんと思うんですけど。ただその間に挟まる、要するにここでの事業は、やはり的確に捉えなきゃいかんもんですから、そこら辺での課題があったらということでもちょっとお聞きしたんですけども。最終的にはあれですよ、よく言われるように、今は利用者さんもだんだん見る人がいなくなるというふうになるという最終結論、それをどうするかということが一番課題だなということになるんかね。

○市川浜名学園きぼうサービス管理責任者 細かいところで、いろいろ利用して出てきてるところでいえば、結局それをするにしても何をやるにしても、保護者様がいなくてできない。そこをサービスでカバーできればいいなという思いはあります。ただ移動支援とか、そういうところだと、公共交通機関を利用して移動するとかって縛りが結構ありまして、それが車で自宅から目的地までという形。そういう何ていうのか、縛りのない形でサービスが利用できれば、もっと利用者さんの生活のほうでも、医療の面でも、もっと暮らしやすくなるんじゃないかという。

○二橋委員 そこが一番課題だよな。

○市川浜名学園きぼうサービス管理責任者 はい。湖西市のコーちゃんバスなどもありますけれども、やっぱりなかなか利用しづらい。事業所に通おうとしても、そういうのを利用して通ってる方もいますけれども、やはりちょっと利用しづらいなという声があります。

○二橋委員 わかりました。

○高柳委員長 ほかにありませんか。

○佐原副委員長 最後に済みません。原則的なことなんですけど、住所が浜名学園の皆さんは、さっき介護認定受けるときに住所をというお話がありましたけど、住所は、更生施設は本来は生活自立できるようにしておうちに帰る目的の施設なんですけど、住所はどこに置かれてるんですか、入所者さんは。

○村松浜名学園サービス管理責任者 住所はほとんどの利用者さん、浜名学園です。生活の主体があるところが住所ですから。

○佐原副委員長 3カ月以上いるところが住所地にしなさいということだからね。わかりました。

○高柳委員長 ほかにございませんか。

ないようでしたら、これで本日の会議を閉じたいと思いますけど、よろしいでしょうかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○高柳委員長 非常に長時間、どうもありがとうございました。貴重な御意見をいただきまして、本当にありがとうございました。これで終わります。

〔午後2時50分 閉会〕

湖西市議会委員会条例第28条第1項の規定により署名する。

委員長 高柳 達 弥